

06 富岡小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	夢や志をもち、その実現に向けて、自ら考え、最後まであきらめずに挑戦する子ども <知> 仲間とよりよくかかわりながら進んで学ぶ子ども <徳> 思いやりの心をもち、自分も仲間も大切にする子ども <体> よりよい生活習慣を身に付け、粘り強くやりぬく子ども
我が校の目指す子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく勉強し、読書に親しむ子ども ・ 自分の気持ちや考えを豊かに表現できる子ども ・ 相手の気持ちを考える子ども（挨拶、思いやり） ・ 自主性、粘り強さ、善悪の判断ができる子ども ・ 外遊びや身体を動かす遊びに夢中になる子ども ・ 節度をもってメディアと接することができる子ども



小中一貫教育の具体的な取組	
実現に向けた重点的な取組内容	我が校の取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 城東中学校区の年間指導計画に基づき、人権教育、同和教育の実践を行った。12月には、保護者への一斉授業公開を行った。また、11月には、子どもの権利テキスト「えがお」を使った人権教育を行い、学校と家庭との連携を図り、差別の不当性や解消に向けた取組を行った。 ・ フラッシュカードを作成し、多くの英単語を見たり、発音したりと繰り返し使用することで英語に慣れ親しむ環境を整えた。
	中学校区の取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度ごとに教科・領域を絞り、焦点化した中で推進していく。 ・ 同和教育部会では、指導計画の見直し、現地学習、かかわる同和教育の実践・推進、同和教育アンケート等を実践し、差別をなくそうとする児童生徒を育成する。 ・ 学習指導部会では、外国語（英語）教育の内容を把握し、小から中へスムーズな接続ができるように共有化を図る。
成果○と課題■	成果○と課題■
○児童アンケートでは、同和問題への理解が75%と向上が見られた。また、人権教育、同和教育の授業公開の参加者は、73%と大変高く、保護者の意識の向上が見られた。 ■感染症の拡大により、ALTが授業に参加できないことが多くあった。また、中学校職員との出前授業等を検討していく。	○同和教育部会は3年目の取組になり、実践の積み重ねや中学校区の同和教育年間指導計画の実施や見直しをスムーズに行うことができた。 ■今年度から取り組む外国語（英語）部会の取組は、今後学校間のつながりについて共通理解を図っていく。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
富岡地域は、商業地域と農業地域を併せもつ地域である。3年生児童は、それぞれの地域に探検に出掛け、様々な発見をしたり、地域の良さに気付いたりした。5年生は、地域の方から米作りを指導していただき、地域の商店で米販売を経験する等、「食」と自分・地域との関係を見つめ直していった。6年生は、身近にある職業に目を向け、地域の方と触れ合った。	総合	「もっと知りたい富岡」（3年）
	総合	『食みらい「る・る・ぶ」～作る・食べる・学ぶ～』（5年）
	総合	「自分発見プロジェクト」（6年）
学校運営協議会の評価 学校運営協議会をはじめ、青少年育成会議、PTA等、いろいろな組織が連携して子どもたちのために活動できるようになるとよい。組織に応じて、地域の方が中心となって途切れることなく継続して運営できるような人材や運営方法を考えていく必要がある。	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった	
	○	当てはまる
		どちらかという当てはまる
		どちらかという当てはまらない
	当てはまらない	

スクールマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	1人	保護者	5人	住民	4人	その他	1人	合計	11人
学校運営協議会の回数 ※()は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回()	2学期	2回()	3学期	1回(1)	合計4回(1)	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	回()	2学期	回()	3学期	1回(1)	合計1回(1)	
活動の内容					成果○と課題■				
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の会議では、学校経営の方針、ランドデザイン、児童の実態、学校評価計画等を協議し、承認をいただいた。 ・第2回の会議では、地域で目指す子ども像について、ワークショップ形式で検討した。また、生活科、総合的な学習の時間における地域素材、人材について意見をいただいた。 ・第3回は、授業参観後、前期の学校経営、学校評価等について協議を行った。 ・第4回の会議は、感染症の拡大により、書面審議となった。 					<p>○地域で目指す子ども像を地域住民、保護者、学校職員で検討することにより、それぞれの役割分担について考える契機となった。</p> <p>○地域の素材や人材について情報提供を受け、生活科、総合的な学習の時間に生かすことで児童の学びを深めることに役立った。</p> <p>■学校運営協議会を現状よりも更に有効活用し、教育活動に生かしていくかが課題である。</p>				

総括
<p>地域とともにある学校づくりでは、児童の学びを深めるために地域資源を有効に生かすことが大切になってくる。そのためには、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部との効果的な連携・協働の在り方が重要になってくる。現在の組織における問題点等を検討し、今後よりよい組織作り及び連携方法について考えていく必要性を感じている。</p>

〈活動写真〉



○3年生が大同紙器工業株式会社に見学に行きました。段ボール等を製造している大きな工場が校区内にあることを知りました。



○5年生が育てた米「みずほの輝き」を校区内にある店舗「あるるん畑」で販売させていただきました。大好評であったという間に売り切れました。



○調理師をお呼びし、6年生が調理の仕事について学習しました。包丁さばきを見学した後、出汁の飲み比べをしたり、実際に調理したりしました。